

1 学校教育目標

生命尊重と人間尊重の精神を基調とし、自ら学ぶ意欲をもち、社会の変化に主体的に対応し、国際社会に活躍できる「徳・知・体」の調和のとれた人間性豊かな生徒を育成する。
 ・活発で礼儀正しい生徒 ・自ら学び、粘り強く努力する生徒 ・心身ともに健康で、心豊かな生徒

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> ・厳しい中にも温かさを感じさせる学校 ・一人ひとりの生徒の良さを伸ばす学校 ・地域・保護者・生徒に信頼される学校
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ・真剣に学び、難しいことにも挑戦する生徒 ・礼儀正しく、自らの考えを表現できる生徒 ・自らを律し、夢に向かい自立していく生徒
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒を愛し、深く理解し、惜しみない指導と支援を行う教師 ・授業力向上に取組み、指導と評価の工夫・改善をめざす教師 ・組織の一員として建設的な提案をし、積極的に実践する教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

〈学校の現状〉創立当時の伝統が引き継がれ、保護者・地域が学校支援に力を注いでくれる。PTA本部役員をはじめ多くの保護者は学校に対して協力的である。「開かれた学校づくり協議会」の委員を中心として、地域の学校への思いは強く貢献的である。生徒は全体的に明るく、人情味がある。多くの生徒は基本的な生活習慣が身に付いており、集団行動の質が高まっている。生徒会を中心に校風・良き伝統づくりのために努力している。

〈前年度の成果と課題〉魅力ある学校の創造に、学校・PTA・地域が一体となり努力を重ねた結果、学校の教育活動を肯定的に評価する生徒・保護者が多い。課題としては学校の特色化と魅力ある学校づくりが必要である。ここ2年間にわたり、コロナ禍のために、様々な取組が中止や延期となった。改めて生徒にとっての取組の意義をとらえた上、推進していきたい。さらに校舎が新しくなり、施設が充実した。生徒がいろいろな活動に積極的に取り組めるよう、最大限施設を活用していきたい。一部の生徒で規範意識が低い生徒が見られる。今後、様々な場面を通して規範意識を高めるとともに、自ら進んで学習に取り組む姿勢を育てる必要がある。特別な支援が必要な生徒に対しては、「青葉ルーム」を活用し、関係諸機関と連絡をとりながら支援していく。今後も一層の教師の指導力・授業力の向上を図り、規範意識や思いやりの心を育み、安全で健康な生活への意識向上を図ることが必要である。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R2	R3	R4	R5	R6
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	基本的な生活習慣の定着と心の教育の充実を図る	○	○	○		
3	魅力ある学校づくりと教育施設の活用を図る	○	○	○		

5 令和4年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
学びの基礎・基本を定着させ学力向上を図る。		年度末到達度テスト 正答率65% 4年度区学力調査 目標通過率65%				自己評価の際に記入			
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象・実施教科	頻度・実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	数学チームティーチング	全学年 数学科	通年 全授業	【指導体制】授業2名体制 【取組内容、ねらい・目的】授業内容の理解が不十分な生徒に、適切な個別指導	数学授業 アンケート	授業に意欲的に取り組めた生徒の割合を80%	自己評価の際に記入		
2 継続	放課後補習教室 (AST)	全学年 英・数 正答率低い生徒	A S T 補充日 放課後 20分	【指導体制】学年教員 【取組内容】演習を中心に個別もしくは少人数指導。 【使用教材】A Iドリル	定期考査 (後期期末)	正答率40%を通過する割合が8割以上			
3 継続	サマースクール	全学年 国社数理英 全員	7月 下旬	【指導体制】学年教員 【取組内容、ねらい・目的】演習をクラスごとに実施。 【使用教材】自作教材	定期考査 (前期期末)	基礎・基本を定着させ、50点に満たない生徒を30%未満。			
4 継続	学習コンクール	全学年 国社数理英 全員	年1回 ～3回 朝学習の時間	【取組内容、ねらい・目的】基礎学力に関するテストを行う。基準未達の生徒には放課後学習を実施する。	各教科 学習テスト	達成基準は各教科により異なる。			
5 継続	家庭学習の定着	全学年 全員	年4回 6、9、 11、2 月	【取組内容、ねらい・目的】テスト2週間前を家庭学習定着期間と家庭学習記録表等で確認	家庭学習実施 状況調査	この期間に1日平均2時間学習した生徒を70%にする			
6 新規	放課後自習教室	全学年 全員	通年	【取組内容、目的】図書室のキャレルでA Iドリルを活用し自ら学ぶ。	利用者数	一日平均10名以上			

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
学力向上を図るために、教員の指導力を高める。	・各教科で主体的で対話的な深い学びができています。授業評価で「授業が分かりやすい」「授業に意欲的に取り組んだ」と肯定的に答える生徒が8割以上	・各授業で下記の項目に沿った授業展開を行う。 ① ねらいの明確化 ② 主体的な活動 ③ 授業の振り返り ・OJTを推進し互いに授業研修を行い、指導力を高める。	自己評価の際に記入		

重点的な取組事項－2	基本的生活習慣の定着と心の教育の充実を図る
-------------------	-----------------------

A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
生活指導が全ての教育活動の根幹であるとの考えのもと、基本的生活習慣の定着、規範意識の向上、いじめを許さない心の教育を充実させる。	生徒および保護者アンケート調査で「学校に行くのが楽しい」と肯定的に答えた割合が8割以上	自己評価の際に記入		

B 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
基本的生活習慣を確立し、規範意識を向上させる。	・常にきちんとした服装・頭髪を心がけさせ、「基本的生活習慣が向上した」と答える生徒80%以上 ・学校や社会のルールを理解し、守ろうとする。	・月1回の身だしなみ点検や朝のあいさつ運動を実施する。生徒指導では教職員が共通理解のもと共通実践する。 ・「素直な心」「我慢する気持ち」「規律ある生活態度」を掲げ、規範意識の向上に努める。	自己評価の際に記入		
悩みを抱えている生徒に適切な対応を行う。	・いじめが発生したときに早期の対応を行う。 ・特別支援教室に通っている生徒の授業満足度が70%以上。 ・年度末、登校できない生徒を10名未満。	・いじめ調査やQ-U調査を実施し、いじめ防止に努める。 ・特別支援教室の充実を図り、通級生徒のコミュニケーション能力を高める。 ・生徒一人一人にあった対応を考え、登校できない生徒を減らす。			
心の教育を推進する。	・道徳の授業を改善・充実を図り、思いやりのある生徒を育てる。	・道徳授業の成果が発揮できるような場面をつくる。研究授業を年2回実施する。			

重点的な取組事項－3		魅力ある学校づくりと教育施設の活用を図る			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
学校の特徴を鮮明にして、魅力ある学校を築く。新校舎の施設を有効に活用する。		本校の取組を、保護者および「開かれた学校づくり協議会」へのアンケート調査で肯定的回答が7割以上。	自己評価の際に記入		
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
ゲストティーチャーによる講演会を行い、広い視野で自ら生き方を考えさせる。	・学年毎に、成長段階に応じた学びに関する講演会を年2回実施する。	・前期はキャリア教育として経済同友会や留学生による講演会を、後期は個性の伸長や自己をみつめることをテーマとした講演会をPTAと協力して開催する。	自己評価の際に記入		
生活リズムの向上と食育の推進を図る。	・年度末の調査で朝食取得率が95%以上 ・「ベジファーストを意識して食事をしている」と答えた生徒70%以上	・「早寝、早起き、朝ごはん」を保護者にも啓発する。年間アンケート2回実施する。 ・食や健康について考えさせる機会をもたせる。			
感染症予防が強く求められる中でも、魅力ある教育活動を行い、発信する。	・スポーツやカルチャーイベントを年間5回以上開催する。 ・学校の様子を保護者や地域に毎日発信する。	・「開かれた学校づくり協議会」と連携し、イベントやボランティア活動を推進する。 ・ホームページを毎日更新し、生徒の様子や様々な情報を保護者や地域に提供する。			
読書教育の推進	・年間読書10冊以上の生徒を50%以上にする。	・年間を通して朝10分の読書を継続。授業などで図書室の活用を推進する。 ・ビブリオバトルやポップ作りを特活の中に取り入れる。			